

朝焼けのマッターホルン



スイスツエルマットにて撮影

加藤 友一 (写真部)



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-F
電 話 (022) 261-7055
F A X (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 大場 尚文

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村（現栗原市花山）の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

平成 28 年、新年明けましておめでとうございます。
 昨年の第 52 回芸術祭では、一般公募 4 年目となる、絵画・彫刻・写真の応募数は順調、2 年目の文芸作品公募では特にジュニアの応募数が学校数、人数とも前年を大きく上回りました。芸術祭全体の入場者数も増加しています。
 11 月 26 日には、表彰式・祝宴が開催されました。表彰式後の祝宴は部門を超えて会員同士が交流できる数少ない機会ですので、もっと多くの会員に参加してほしいと感じました。
 10 月には仙台・大邱国際交流絵画・写真展が芸術協から 12 名が訪韓し、大邱文化芸術会館で開催されました。展示作業、役員交流協議の後のオープニングセレモニーでは大歓迎を受け、

「新たな価値の創造」



宮城県芸術協会理事長
大場 尚文

一人一人に花束が贈られ、芸術交流を通しての相互の芸術文化の発展と友情を再確認しました。
 今、芸術は概念そのものを著しく拡大、複雑多岐の変化を伴いながら進行しています。芸術協会としては、これまでの活動を踏襲した上で、あらためて培ってきた時間の価値・軌跡を見つめ、「今」そして「これから」を考察し、基盤を整えていきます。

これからも、新たな価値の創造と次世代へ繋ぐための魅力ある芸術協会を目指し、多くの県民を魅了し続ける強い求心力をもった団体でありたい、と思っております。

新しい年が皆様にとってより佳き年でありませう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

第52回 芸術祭

11月26日に表彰式

平成27年9月25日に開幕した第52回宮城県芸術祭は、各事業が成果を挙げながら順調に進み、11月26日、ホテルメトロポリタン仙台で表彰式を行った。



大場尚文会長から賞を受ける書道部の佐藤象雲さん

表彰式には各賞の受賞者をはじめ、芸術祭関係者、来賓や芸術協会ら240人が参加した。開会にあたって、芸術祭会長の大場尚文宮城県芸術協会理事

長があいさつ。「芸術祭を半世紀にわたり欠かすことなく開催し、芸術文化の振興に努めて来たのは、芸術ならではの力であると思う。受賞者の方々は、長年にわたる研鑽の結果の表彰であり、敬意を表します」と述べた。

引き続き芸術祭名誉会長・村井嘉浩宮城県知事のあいさつ（代読）があり、主催七団体代表者と

来賓が紹介された。

次に各受賞者65人の表彰が行われ、賞状と記念品が贈られた。また、宮城県芸術協会功績者19人の表彰があり、大場理事長から表彰状と記念品が授与された。続いて地域文化功労者文部科学大臣表彰を受けた2人と、宮城県文化の日表彰（教育文化功労）の7人が紹介され、同様に記念品が手渡された。

祝宴は奥山恵美子仙台市長のあいさつ（代読）で始まり、受賞者を中心に部門を超えての歓談で交流が深まった。華やかで有益な2時間であった。

今年度からピアノコンクールが芸術祭事業に組み込まれ、芸術祭の終了は3月20日となる。

仙台市の文化施設使用料値上げ

芸術文化振興に逆行

= 市に反対意見表明 =

意見公募（パブリックコメント）を実施した。

市民が芸術文化を創造し発信する拠点となっている文化施設の使用料値上げは、市の芸術文化の振興に逆行するもので、創立以来50年以上も宮城県の芸術文化の振興・発展に尽くしてきた当協会にとっては、看過できない問題である。

こうしたことから、12月22日に大場尚文理事長と執行理事4人が仙台市役所を訪れて稲葉信義副市長と会見。文化施設の使用料値上げに反対する奥山恵美子市長あての意見書を提出し、値上げを見送るよう強く要望した。

仙台市は、今年10月から文化施設を含む市民利用施設の使用料値上げを行うとし、昨年11月24日から12月22日まで市民から

「邦楽部」梅岡友紀子、佐藤皖山、宮澤寒山（三曲） 杵家弥孝 寿（長唄）

「茶道部」東海林宗苑（表千家） 遠藤宗光、榎野宗和（裏千家） 奥泉京舟、松谷綾泉（三彩流） 遠藤有美斎（石州清水流） 大槻南和、菅原南富（織田流） 安並 妙美（武者小路千家） 伊藤純和、大友純尚（清泉幽茗流） 川崎宗凌（遠州流）

19人に功績者表彰

平成27年の芸術祭表彰式で、功績者表彰として華道部2人、洋楽部1人、邦楽部4人、茶道部12人の計19人が受賞した。受賞者は次の通り（敬称略）。

「華道部」野上豊雅（小原流） 吉田梅汀（草月流） 「洋楽部」松田馥子

市の資料によると、値上げは段階的に行われ、最終的にはかなり大幅となる。使用料の値上げは、当協会会員の個展・リサイクルなどをはじめ、市民の芸術活動に大きな支障となり、活力ある芸術文化の発展を阻害することは明らか。さらに宮城県や仙台市などの共催で続けている宮城県芸術祭への、深刻な影響も避けられない。

当協会は、今後も仙台市に使用料値上げをしないよう働きかけを続けていくことにしている。

第52回宮城県芸術祭来場者数

事業名	入場者数
開会式	70
書道展	3,254
工芸展	1,681
華道展	3,372
写真展・写真公募展	3,092
彫刻展・彫刻公募展	3,268
絵画展（公募の部）	3,268
絵画展（会員展）	9,567
文学散歩	32
長唄演奏会	207
茶会	3,829
文芸祭	133
音楽会	439
絵画・書道展栗原展	332
表彰式	239

参加行事

事業名	入場者数
第59回仙台三曲協会定期演奏会	380
第46回洋舞公演	980

地域文化功労者文部科学大臣表彰 小山、柏原両氏が受賞

文化庁の平成27年度地域文化功労者に対する表彰式が11月18日、東京・霞が関の文部科学省で行われ、当協会の小山喜三郎名誉会員（絵画部）、柏原眠雨参事（文芸部）の両氏が受賞された。

地域文化功労者表彰は、全国の各地域で芸術文化の振興、文化財の保護などに功績のあった個人、団体を対象としている。

小山名誉会員は「画家として永年、優れた活動を行うとともに、宮城県芸術協会理事長などを務め、地域文化の振興に貢献している」ことが評価された。創立当初からの芸協会員で、評議員、理事、常任理事、副理事長を歴任し、平成18年から24年までは第8代理事長。絵画部長も務めた。昭和54年度宮城県芸術選奨、平成15年文化の日表彰を受賞。

柏原参事は「永年にわたり、俳人として優れた活動を行い、宮城県芸術協会参事などを通じて地域文化の振興に貢献している」ことが評価された。昭和57年に芸協に入会し、評議員、理事を歴任、平成22年から参事。平成12年度宮城県芸術選奨、平成16年文化の日表彰、平成26年春の叙勲で瑞宝中綬章を受賞。

文化の日表彰は7氏に

（敬称略）。

宮城県の平成27年文化の日表彰が11月6日、仙台国際センターで行われた。当協会からは、教育文化功労の分野で7氏が選ばれ、村井嘉浩宮城県知事から表彰を受けた。受賞者は次の通り

- 菊地勝彦（文芸部・詩） 佐治英子（文芸部・俳句） 跡部高染（絵画部・洋画） 本間潔（工芸部・木竹芸） 草刈光露（華道部・小原流） 中塚仁（書道部） 千葉蒼玄（書道部）

部長会議を開催

芸術祭・来年度予算など議題に

本年度の部長会議は、第2回が12月4日、第3回が1月15日に芸術協会会議室で開かれた。

第2回会議では「第52回芸術祭について」「各部における正会員の拡大について」が、議題となった。芸術祭関係では、今年度の反省点や次年度への課題が話し合わせ「各流派が部門のデ

モンストレーションを行う新企画が好評だった」（華道部）「入場者の減少が目立つ巡回展の在り方を見直してはどうか」（絵画部）などの意見が出された。

正会員の拡大については「部内に会員推挙委員会をつくり、公募展入賞者だけでなく、スキルの高い作家の勧誘も行ってい

る」（絵画部）「各団体や結社の指導者に声掛けしながら入会者を増やしていきたい」（書道部・文芸部）「部の名称を変えて多くの分野の芸術家が入会できるようにしてはどうか」（演劇部）など、活発な意見が交わされた。

第3回会議の議題は「平成28年度予算について」と「各部からの理事候補者の推薦について」で、各部に対して来年度予算案の作成（2月19日まで）と理事候補者の推薦（2月26日まで）が要請された。

新春随想

七福神

参事 柏原眠雨（文芸部）



ものをつくづく思う。

俳句の新年の季語の一つに「七福神詣」がある。元日から七日までの間に、七福神の祀られている寺社七つを巡拝するもので、江戸中期から庶民の間に盛んになった新年行事である。七神を福神として崇める風習は、すでに室町時代に成立した。その福

付会され、農の神となった。毘沙門は多聞天に同じで、インド神話では財宝の神である。弁天はインドの水の神で、仏教では財福や知恵の神とされた。福祿寿と寿老人は中国の道教の神。現世利益と不老長寿を代表す

吸収する姿勢の表れとも言えよう。日本人が国際人として、宗教上の寛容の心を持ち合わせている証左といってもよい。現今の世界には国家民族の抗争や宗教宗派の対立が絶えないが、七福受容の日本人のこの

福祿寿、寿老人、布袋の七神である。

る。布袋は中国に実在した禅僧で、その福相が尊ばれた。

仙台にも七福霊場が組織されている。屋上に恵比須神社を祀る藤崎デパートには、出開帳と称して年頭にその七神が集結してくる。地下鉄東西線開業で便利になった藤崎に向いて、今年も世界平和を祈念してきた。

恵比須は日本の神で、西宮神社祭神の蛭子命。漁業海運の神で商売の神にもなった。大黒はインドの神で、中国に入って厨神となり、日本では大国主命に

こうして見ると、七福神は出自がまちまちで、国際色も豊かである。七福信仰は、日本人が他国の文化を努めて受容し、他民族から学ぶべきものを進んで

第 52 回宮城県芸術祭受賞者(公員)

	部 門	作 品 名	氏 名
宮城県芸術祭賞	書 道 部	銭 起 詩 (漢 字)	佐 藤 象 雲 (仙台市)
	工 芸 部	袖 着 物 “室 生 薰 風” (染 織)	安 倍 ま ゆ み (仙台市)
	彫 刻 部	移 ろ い 行 く 街	赤 井 靖 武 (塩竈市)
	絵 画 部 (日 本 画)	花	三 浦 ひ ろ み (横浜市)
	絵 画 部 (洋 画)	森 の ス テ ー ジ 2 0 1 5	其 田 マ サ (仙台市)
	文 芸 部	花 野 風 (俳 句)	鈴 木 幸 子 (大河原町)
宮城県知事賞	書 道 部	遠 き も の (墨 象)	千 葉 華 紅 (大崎市)
	工 芸 部	有 線 七 宝 幾 何 文 花 瓶 (七 宝)	佐 瀬 た か 子 (岩沼市)
	写 真 部	深 山 曙	吾 妻 克 美 (大河原町)
	彫 刻 部	終 息 と 誕 生 の 風 景	日 下 育 子 (仙台市)
	絵 画 部 (日 本 画)	葉 月 の 朝 に	岩 渕 仁 子 (富谷町)
	絵 画 部 (洋 画)	L a n d s c a p e	町 田 美 野 (名取市)
	文 芸 部	砂 浜 は 貝 の 褥 (詩)	及 川 良 子 (気仙沼市)
	文 芸 部	時 の ほ と り に (短 歌)	菊 地 か ほ る (大崎市)
	文 芸 部	夏 つ ば め (俳 句)	鈴 木 清 子 (柴田町)
	文 芸 部	病 葉 の 唄 (川 柳)	菅 野 實 (仙台市)
仙台市長賞	書 道 部	い に し へ の (かな)	畠 山 秋 玲 (仙台市)
	絵 画 部 (日 本 画)	宿 る	新 藤 圭 一 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	ハ チ ガ ツ ナ ノ カ	本 田 崇 (大河原町)
河北新報社賞	書 道 部	明 哲 保 身 (篆 刻)	佐 藤 吏 陵 (仙台市)
	工 芸 部	B o w l (陶 芸)	市 岡 泰 (利府町)
	写 真 部	む が し あ っ た づ も な あ ~	渡 部 う め 子 (仙台市)
	彫 刻 部	cHOUKOkU 息 吹 つ つ む	板 持 彰 (仙台市)
	絵 画 部 (日 本 画)	赫 夏	佐 々 木 智 朗 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	叢	和 田 三 夫 (仙台市)
	文 芸 部	赤 い 月 (短 歌)	佐 久 間 す ぶ 子 (仙台市)
宮城県教育委員会教育長賞	書 道 部	辛 抱 (少 字)	佐 々 木 藤 恵 (塩竈市)
	工 芸 部	藍 釉 し の ぎ イ ッ チ ン 花 文 組 皿 (陶 芸)	中 山 晴 代 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	遙 か	小 野 由 貴 子 (仙台市)
宮城県教育委員会教育長新人賞	書 道 部	闡 濟 大 猷 (篆 刻)	遠 藤 珠 玉 (多賀城市)
	書 道 部	翔 (墨 象)	大 庭 幸 石 (大崎市)
	工 芸 部	海 の 中 (陶 芸)	大 沼 明 子 (仙台市)
	絵 画 部 (日 本 画)	葡 萄	富 樫 清 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	刻	千 田 秀 子 (美里町)
仙台市教育委員会教育長賞	書 道 部	秋 霖 の 景 色 (近 代 詩 文)	木 村 笙 園 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	風 の 旋 律	菅 原 典 子 (仙台市)
宮城県議会議長賞	書 道 部	王 漁 洋 詩 興 孫 約 周 星 公 往 白 鹿 洞 次 迴 流 山 (漢 字)	佐 々 木 芝 翠 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	記 憶 の 刻	山 口 優 子 (名取市)
仙台市議会議長賞	書 道 部	t i m e (墨 象)	千 葉 四 帆 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	風 の 譜 - 第 2 楽 章 -	佐 野 福 代 (仙台市)
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	書 道 部	う た の 会 (かな)	黒 田 清 苑 (岩沼市)
	書 道 部	刻 露 清 秀 (篆 刻)	村 山 柳 雅 (仙台市)
	書 道 部	蓮 を 巡 る (近 代 詩 文)	下 田 真 菜 (仙台市)
	工 芸 部	赤 陶 象 嵌 草 文 水 指 (陶 芸)	鳥 見 美 由 紀 (岩沼市)
	写 真 部	威 風	小 住 正 吾 (大崎市)
	絵 画 部 (洋 画)	想 ・ い だ く	佐 藤 美 栄 子 (仙台市)
	文 芸 部	も の の 影 (短 歌)	半 澤 裕 (仙台市)
公益財団法人カメイ社会教育振興財団賞	絵 画 部 (日 本 画)	と り	三 浦 孝 子 (大崎市)
	絵 画 部 (洋 画)	無 題	伊 藤 宏 子 (仙台市)
菅野美術館賞	彫 刻 部	俺 と い う 奴 は	松 下 文 久 (石巻市)
門伝勝太郎賞	書 道 部	宋 褻 詩 (漢 字)	鈴 木 霽 月 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	E L L E M E N T S - 透 命 -	齋 藤 正 和 (仙台市)
宮城県芸術祭奨励賞	書 道 部	感 (少 字)	熊 谷 青 山 (仙台市)
	書 道 部	夢 を 繋 い で (近 代 詩 文)	太 田 栄 美 子 (仙台市)
	書 道 部	幽 窓 (漢 字)	佐 々 木 鳳 堂 (大崎市)
	書 道 部	白 いたんぼゝの 詩 (近 代 詩 文)	武 山 櫻 子 (気仙沼市)
	書 道 部	あ り の ま ま に (近 代 詩 文)	岩 崎 邦 彦 (大崎市)
	書 道 部	呉 蘭 雪 詩 (漢 字)	遠 藤 芙 蓉 (富谷町)
	写 真 部	Listen To THE Trees	小 出 一 郎 (大崎市)
	写 真 部	向 こ う へ	関 口 洋 美 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	刻 は 巡 る	堀 井 明 美 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	い の ち	石 川 由 巳 子 (仙台市)
	絵 画 部 (洋 画)	prologue 2 0 1 5 -V	鈴 木 千 津 (石巻市)
	文 芸 部	明 日 へ 生 き る (川 柳)	千 葉 フ ミ (仙台市)
	宮地房江賞	工 芸 部	有 線 七 宝 水 指 「連 景 歌 譜」 (七 宝)

=タイ、ミャンマー研修旅行= 現地画家との交流も



チエンマイで現地画家と交流する参加者

平成27年度の研修旅行は、大場尚文理理事長を団長に10人が参加し、11月16日から21日まで5泊6日の日程で行われた。

今回は「タイ芸術との交流と古都巡り」。タイ北部のチェンマイ、チェンライ、国境を越えてミャンマーのタチレク、タイに戻ってアユタヤ、バンコクを

チエンマイでは、この地域の歴史・文化の展示や美術展などを開催する「チエンマイ美術・文化センター」を訪問。タプティム・スハウォンナン副館長から、チエンマイ芸術についての話を伺い、館内の展示を視察した。その後、チエンマイでタイ仏教画を研究し、著書も出版している画家ポンパン氏のアトリエを訪問。作品を前に絵画について交流を深めた。

巡る旅となった。

世界遺産となっているチェンマイ、チェンライ、アユタヤは、いずれもタイの古都で、数多くの歴史遺産や仏教寺院、ヒンズー教寺院が残されている。また、日傘やタイシルクなどの伝統工芸や古くからの風俗も伝承され、独特の風致や景観をなした有意義な研修旅行となった。

ンマー南部では、首長族として有名な少数民族カレン族の村での美しい民族衣装による舞踊の見学やタチレクの自由市場訪問などで、異文化を満喫した。

今回も、研修旅行全体を通していろいろな場面で参加者同士の部門間交流が図られ、充実した有意義な研修旅行となった。

芸術祭絵画展受賞者作品展 今年から公募受賞者も

第52回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展が1月19日(火)から24日(日)まで、宮城県文化振興財団との共催により仙台市青葉区の東京エレクトロンホール宮城5階展示室で開催された。

本展では、第52回宮城県芸術祭絵画展の会員受賞者21人と今年から新たに加わった公募の部受賞者8人がそれぞれ受賞作と新作を出品。会場には58点の作品が展示された。

テーマは祭やイベント 定禅寺フォトコンテスト

仙台市の定禅寺通りで催される祭りやイベントをテーマとした、宮城県文化振興財団と宮城県が主催、当協会が共催するフォトコンテストは、10月末日に応募が締め切られた。応募者数は24人、応募作品数は65点。当協会写真部が審査を行い、入賞者9人、入選者15人を選んだ。

土屋瑞穂参事(彫刻部) 河北文化賞を受賞



当協会の土屋瑞穂参事(彫刻部)が「多年にわたり美術界の発展と芸術文化の向上に寄与」したとして、第65回(2015年度)河北文化賞を受賞。1月16日の贈呈式で賞牌と副賞を受けた。

土屋参事は長野県上田市生まれ。東京芸大卒業後、宮城教育大学教授などを歴任。1960年には院展で最高賞を受賞。キューバ・ハバナ市に立つ支倉常長像なども手掛けた。

当協会では平成4年から理事、平成16年から参事を務め、長年運営と発展に尽くして来た。

今回、洋楽部の佐藤淳一氏が芸術監督を務める仙台オペラ協会も、河北文化賞を受賞した。

これらの作品展は12月11日から17日までに東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)で開催され、入場者は358人であった。入賞・入選者への表彰式は、12月12日に行われた。



フォトコンテスト作品展示会場

カメイ美術館共催絵画展 「選ばれし作品の軌跡」

当協会とカメイ美術館の共催による、本年度通算7回目を迎える絵画展「選ばれし作品の軌跡」展が、2月2日(火)から3月13日(日)まで、仙台市青葉区のカメイ美術館で開かれる。

今回は昨年を引き続き、宮城県芸術祭の芸術祭受賞作品の中から、平成14年から26年までの日本画・洋画を展示する。

2月13日(土)には作家によるギャラリートーク、3月5日(土)には当協会洋楽部会員によるギャラリートークがある。

今年も高校生まで拡大

第36回ピアノコンクール

宮城県内の小・中学生の音楽的資質向上に寄与するため毎年開かれているピアノコンクールは、今年度から芸術祭事業の一環となり、対象も高校生まで拡大された。予選が2月14日、本選が3月20日に、日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）で開かれる。

ミュージックフェスタ2015 2月28日に美里町で

平成27年度の洋楽部によるみやぎミュージックフェスタは、2月28日（日）に、当協会、宮城県文化振興財団、美里町の共催で「みやぎミュージックフェスタ2015 in みさと」として、美里町文化会館で開催される。

プログラムは、第一部「吹奏楽ー未来への響き」、第二部「みさと音楽家と芸術協会会員との饗宴」、第三部「オーケストラと合唱の魅力」の構成となる。

今回も、芸協会員による演奏だけでなく、地元小・中学校の

事務局日誌

会務報告

- 12・4 部長会議
- 第52回宮城県芸術祭について
- 各部における正会員の拡大について
- 12・11 理事会
- 平成28年度予算の編成方針について
- 新入会員の承認について
- 理事候補者数の配分について

後援

- ☆第8回河北新報小・中学生紙上書道展
- 12月中旬
- ☆河北新報朝刊紙上
- ☆第28回いずみ絵画協会展
- 12月5日～11日
- イズミテイ21
- ☆美里町「河北展」
- 12月5日～13日
- 美里町近代文学館
- ☆第33回メサイアコンサート
- 12月12日
- 日立システムズホール仙台
- ☆東北書道新春選抜展
- 1月30日～2月3日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第33回白土会展
- 2月18日～23日
- 東京エレクトロンホール宮城
- ☆第11回Dance Competition in Sendai 2016
- 2月20日～21日
- 仙台国際センター
- ☆第75回春のいけばな展
- 2月27日～3月1日
- せんだいメディアアテーク
- ☆天佑台湾感恩公演 in みやぎ
- 3月12日
- 東京エレクトロンホール宮城

けやきの譜

宮城県芸術協会は昨年暮れ、奥山恵美子仙台市長宛てに、市民利用施設の使用料見直し（値上げ）に関する反対の意見書を提出した▼昨年12月初めの新聞報道によると、使用料見直しは今年10月から実施の予定。1983年度以来33年ぶりの改定で、受益者負担の観点から各施設の建設以降の物価上昇率を反映させ、値上げ幅は最大2割に上る見込みだという▼2014年度で、改定対象の施設運営経費154億円に対して使用料収入は約14%の22億円余にすぎず、これが主な値上げの理由。ただし、行政の理屈としてはいいとしても、疑問も残る▼例えば、公設民営のような形をもっと広げられないのか。高齢社会の中で、高齢者の活動機会を狭めるようなことはいかかなものか。何よりも芸術・文化への理解が不足してはいないか。20数年前、当時の宮城県知事が「芸術・文化にカネを出すのは、カネをどぶに捨てるようなもの」と、失言したことがある。市長の頭の中に、こんな考えはないことを願っている。（恂）

寄贈圖書の活用を

芸協事務局の書架には、これまで寄贈された本など、1200冊余りが収納されています。平成になってから寄贈された会員の著書を主に、芸術・文芸団体、結社などの機関誌や同人誌、画集なども揃っておりますので、是非ご活用願います。お探しの本や同人誌などがありましたら、事務局（022-26117055）までお問い合わせください。

受贈書

歌集「ふうせんかづら」(佐藤淑子)

会員の受賞など

- ◇第55回俳人協会賞 柏原眠雨句集「夕雲雀」

謹弔

絵画部 (洋画)	菊池福子殿	6月27日
文芸部 (俳句)	長棟光山子殿	12月17日
文芸部 (川柳)	小山翠泉殿	12月19日
絵画部 (洋画)	佐藤クニ虹殿	12月29日

新入会員

【洋楽部】吉田和久(仙台市泉区)